

宮田村アンケート集計結果 (個人農家)

1：アンケート概要

	町	新田	中越	北割	大田切	大久保	南割	全地区
配布数	82	59	49	51	58	46	70	415
回答者数	60	53	44	45	45	39	60	346
回答率 (%)	73.2	89.8	89.8	88.2	77.6	84.8	85.7	83.4
耕作面積 (ha)	50.7	60.1	63.3	50.1	61.9	42.3	61.9	390.5
平均年齢	69.3	66.7	65.2	64.7	65.5	63.9	67.4	66.1
専業農家数	10	11	15	16	17	11	11	91
兼業農家数	20	28	15	23	24	18	21	149
自給的農家数	27	14	10	5	4	8	24	92
無回答	3	0	4	1	0	2	4	14

- 個人農家に対してのアンケートを基に作成
- 耕作面積に関しては、宮田村役場のAGISのデータを引用した
- 年齢は回答者の平均を小数点以下四捨五入

2：各地区の回答者の年齢分布

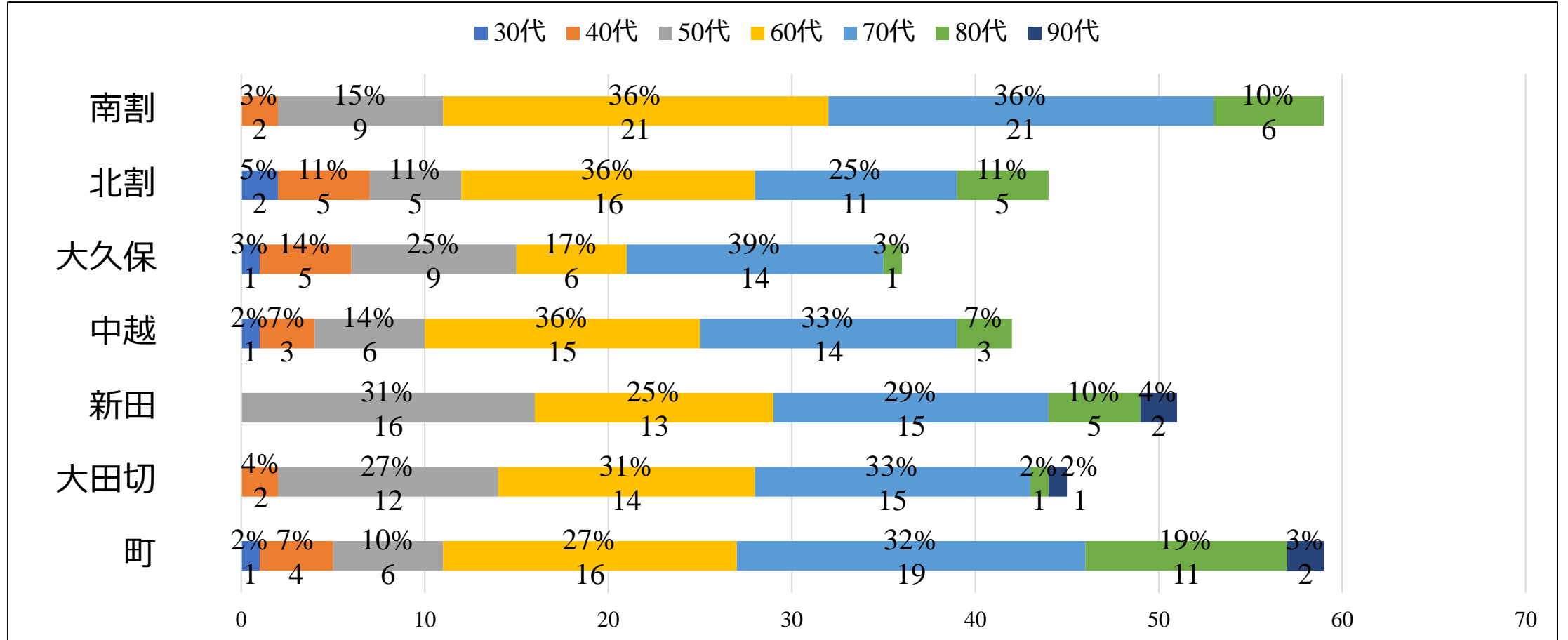


図. 各地区の回答書の年齢分布

注. グラフ中の数字は回答者数と各地区の割合

3-1：個人農家の10年後経営（全地区）

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39		南割 n=61		全地区 n=348	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
現状維持	22	36.7	23	43.4	19	43.2	16	35.6	22	47.8	17	43.6	32	52.5	151	43.4
規模拡大	1	1.7	2	3.8	1	2.3	0	0.0	2	4.3	3	7.7	2	3.3	11	3.2
規模縮小	12	20.0	11	20.8	11	25.0	16	35.6	8	17.4	6	15.4	5	8.2	69	19.8
農業をやめる	22	36.7	14	26.4	12	27.3	10	22.2	9	19.6	10	25.6	17	27.9	94	27.0
無回答	3	5.0	3	5.7	1	2.3	2	4.4	5	10.9	3	7.7	5	8.2	22	6.3
わからない	0	0.0	0	0.0	0	0	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0	1	0.3
計	60	100	53	100	44	100	45	100	46	100	39	100	61	100	348	100

図. 個人農家の10年後経営の意向

- 人数比率は小数点第二位を四捨五入（以下同様）

3-2：個人農家の10年後経営(グラフ)

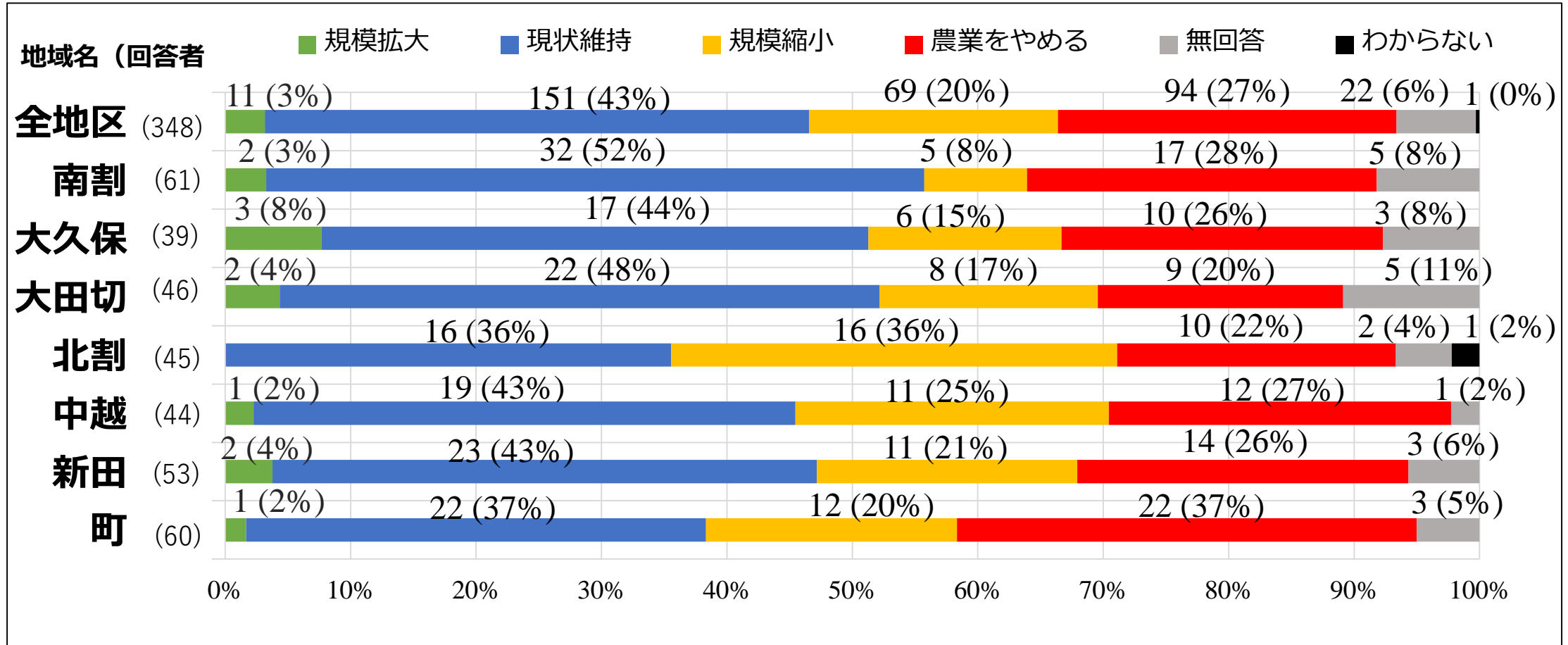


図. 個人農家の10年後の農業経営について

注. グラフ中の数字は回答者数

4-1：年代別10年後の農業経営（表）

表. 年代別10年後の農業経営（単位：人）

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
現状維持	3	12	26	42	29	8	1
規模拡大	1	2	5	2	1	0	0
規模縮小	0	3	9	21	20	6	0
農業をやめる	0	3	8	15	30	10	4

- 無回答、「分からない」と回答した人は除く

4-2：年代別10年後の農業経営（グラフ）

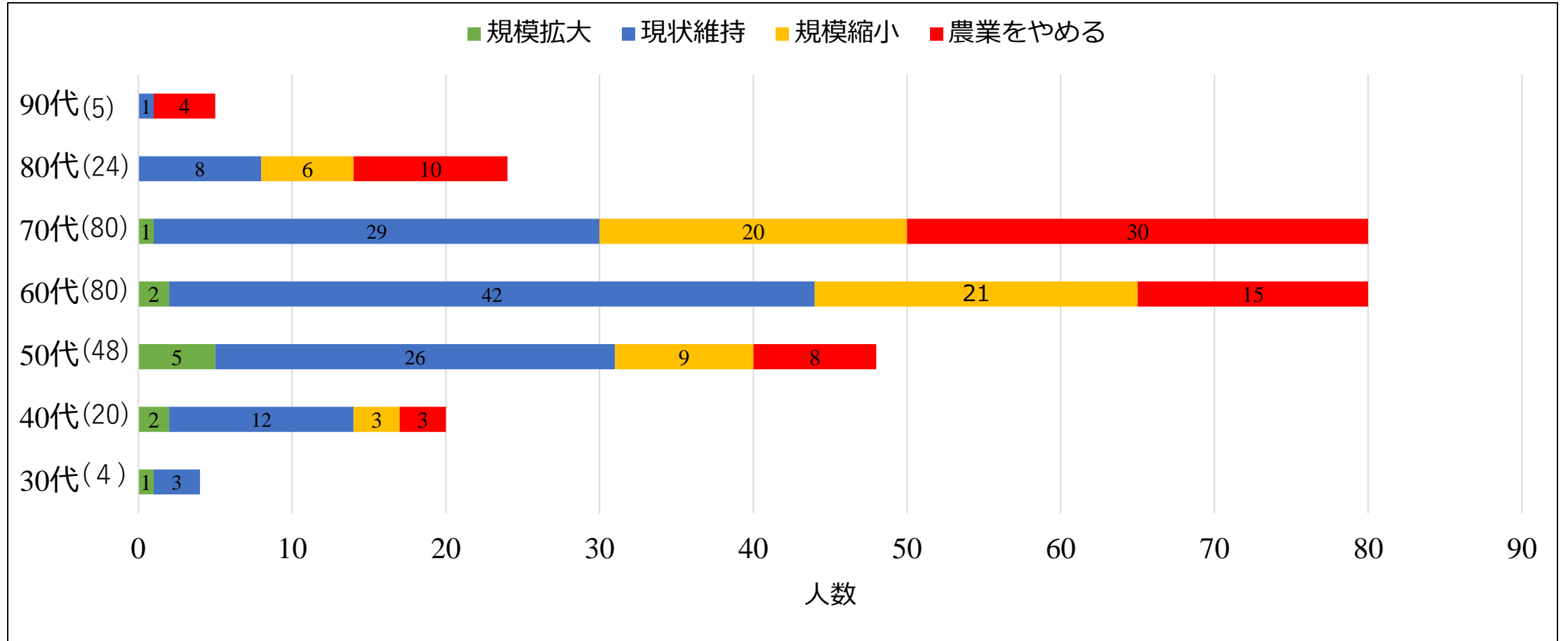


図. 年代別10年後の農業経営（実数）

注. グラフ中の数字は回答者数

5-1：農業をやめる、縮小する理由（全地区）

表. 農業をやめる、縮小する理由について

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39		南割 n=61		全地区 n=348	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
高齢化	24	45.3	19	41.3	20	55.6	21	51.2	14	46.7	14	48.3	13	50.0	125	47.9
採算が合わない	12	22.6	11	23.9	3	8.3	10	24.4	6	20.0	4	13.8	5	19.2	51	19.5
後継者不足	16	30.2	15	32.6	11	30.6	10	24.4	10	33.3	8	27.6	6	23.1	76	29.1
その他	1	1.9	1	2.2	2	5.6	0	0.0	0	0.0	3	10.3	2	7.7	9	3.4
計	53	100	46	100	36	100	41	100	30	100	29	100	26	100.0	261	100.0

- 高齢化、後継者不足といった理由が多い
- 回答は複数回答可

5-2：農業をやめる、縮小する理由（グラフ）

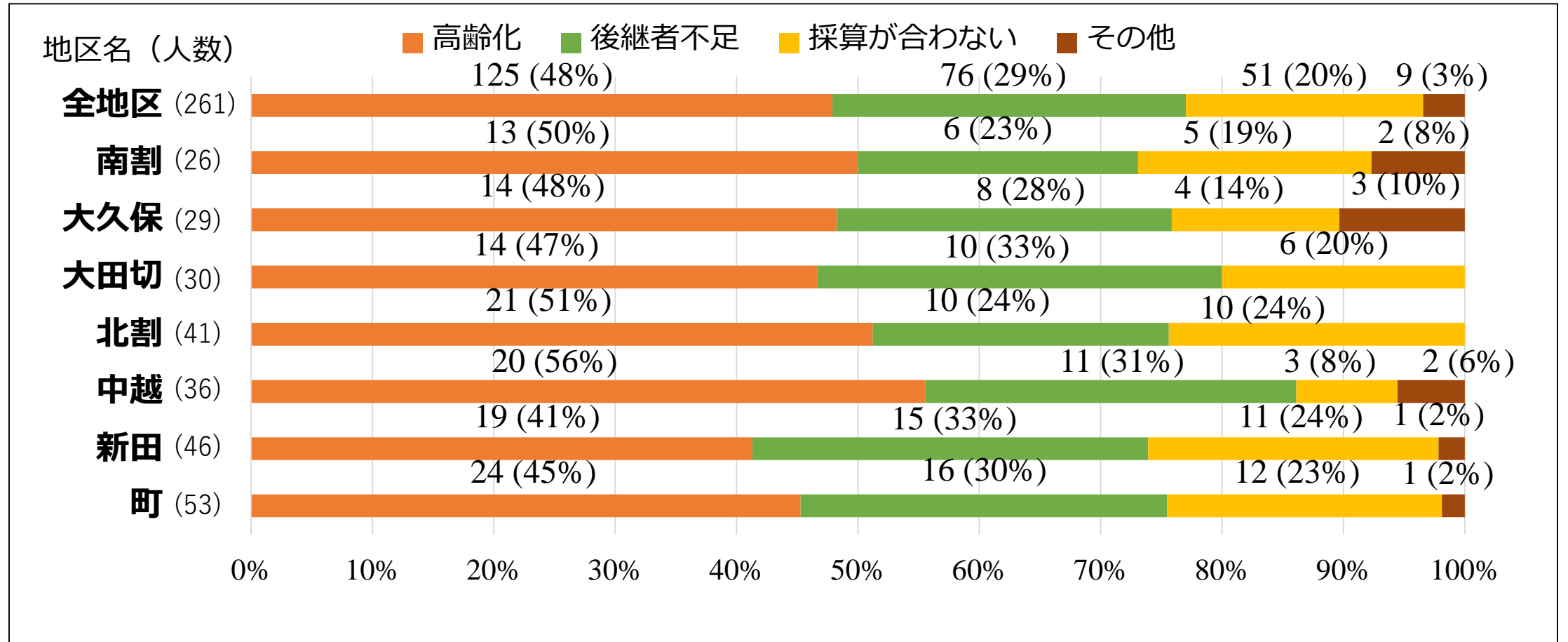


図. 10年後農業をやめる・縮小する理由（回答した人数のうち挙げられた項目の割合）

注. グラフ中の数字は回答者数（複数回答可）

6：村の耕作面積の変動

単位：ha		町	新田	中越	北割	大田切	大久保	南割	全地区
現在の耕作面積 A		50.7	60.1	63.3	50.1	61.9	42.3	61.9	390.5
アルプスロード用地で減少する農地 B		—	—	—	—	—	—	—	21.1
規模拡大（戸別農家） C1		2.0	10.0	5.0	0.0	1.5	13.0	7.5	39.0
規模拡大（グループ） C2		0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	1.7
アルプスロード用地で耕作場所を変更する予定 D		—	—	—	—	—	—	—	16.5
委託化農地（戸別農家） E1		8.5	12.1	22.9	10.1	9.0	8.0	10.8	79.5
委託化農地（グループ） E2		0.0	0.0	3.6	0.0	1.1	1.0	7.3	13.0
アルプスロード用地かつ農地縮小予定 F		—	—	—	—	—	—	—	5.2

図. 全村の耕作面積及びその変動について

10年後委託化され、減少する耕地面積 = $A - B - (E1 + E2) + F + C1 + C2 + D$

390.5ha → 339.3ha 13.1% (51.2ha) の農地が委託農地となる

7：10年後に想定される農業従事者

表. 10年後に想定される農業後継者

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39		南割*1 n=61		全地区 (南割を除く) n=287	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
後継者がいる	10	16.7	7	13.2	6	13.6	5	11.1	8	17.4	9	23.1			45	15.7
後継者がいない	18	30.0	13	24.5	9	20.5	12	26.7	10	21.7	13	33.3			75	26.1
回答者本人	21	35.0	27	50.9	22	50.0	25	55.6	21	45.7	13	33.3			129	44.9
不明	0	0.0	0	0.0	1	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0			1	0.3
無回答	11	18.3	6	11.3	6	13.6	3	6.7	7	15.2	4	10.3			37	12.9
計	60	100.0	53	100	44	100	45	100	46	100	39	100			287	100.0

*1 = 南割ではアンケート項目になし

- 回答者本人 = 10年後も回答者本人が農業を続ける
- 大久保以外では10年後以降も回答者本人が農業を続けるという回答が最も多かった。
- どの地区でも共通して、後継者が農業を続ける、と回答した人は少なく1~2割にとどまった。

8-1: 高齢に伴い困難になる作業（水稻栽培）

表. 高齢に伴い困難になる作業

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39		南割*3 n=61		全地区 (南割は除く) n=287	
	人数	割合 (%) *2	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
育苗	12	20.0	9	17.0	4	9.1	8	17.8	10	21.7	8	20.5			51	17.8
耕起	13	21.7	10	18.9	7	15.9	13	28.9	8	17.4	12	30.8			63	22.0
代掻き	13	21.7	10	18.9	6	13.6	14	31.1	8	17.4	13	33.3			64	22.3
畦塗り	9	15.0	7	13.2	5	11.4	8	17.8	9	19.6	10	25.6			48	16.7
田植え	15	25.0	14	26.4	9	20.5	15	33.3	10	21.7	11	28.2			74	25.8
草刈り	27	45.0	41	77.4	27	61.4	37	82.2	34	73.9	28	71.8			194	67.6
防除	19	31.7	22	41.5	15	34.1	20	44.4	19	41.3	24	61.5			119	41.5
収穫	15	25.0	13	24.5	6	13.6	9	20.0	10	21.7	8	20.5			61	21.3
水見	9	15.0	6	11.3	3	6.8	9	20.0	7	15.2	5	12.8			39	13.6
なし	23	38.3	11	20.8	14	31.8	5	11.1	10	21.7	7	17.9			70	24.4

*2 = 回答者数を分母にしている

*3 = 南割ではアンケート項目になし

- どの地区でも共通して「草刈り」という回答が多かった。特に北割で割合が大きい。
- 次点で防除などが高齢化に伴い困難になると回答している。
- 次のスライドでは各地区のグラフを載せる

8-2: 高齢に伴い困難になる作業 (水稻栽培)

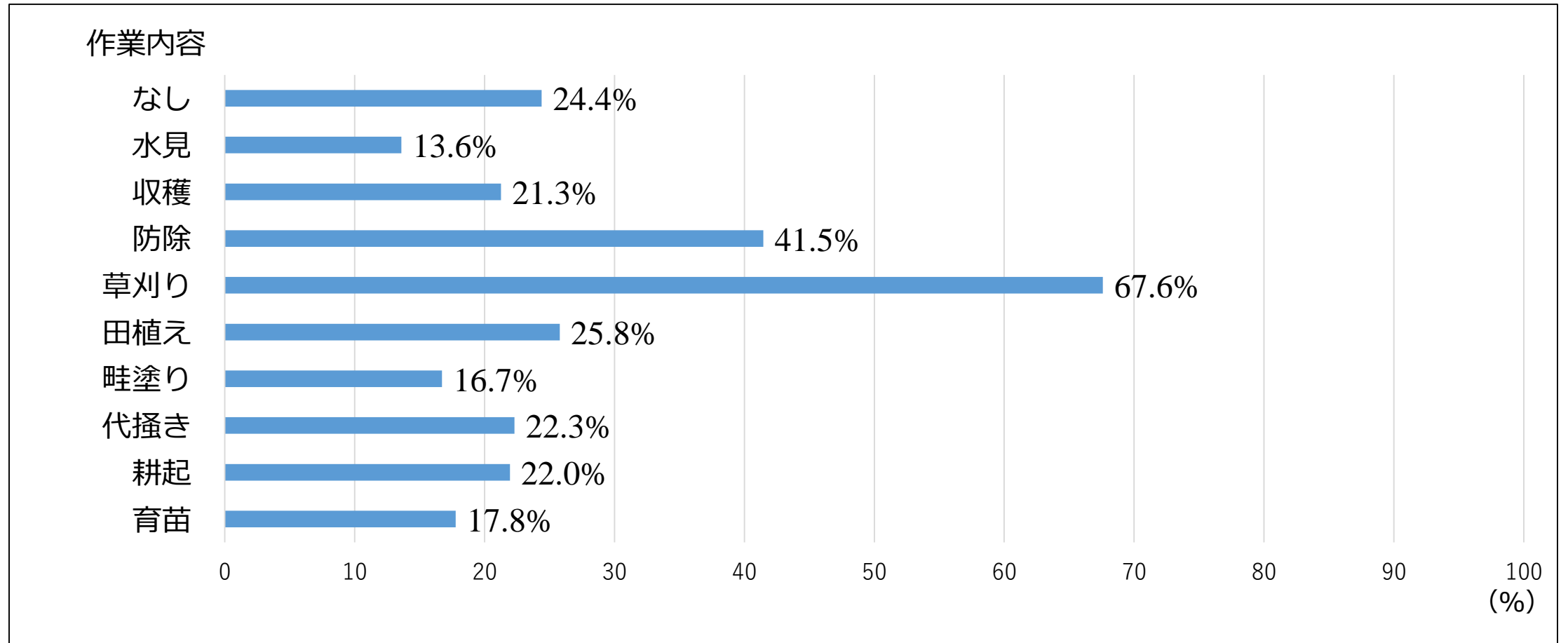
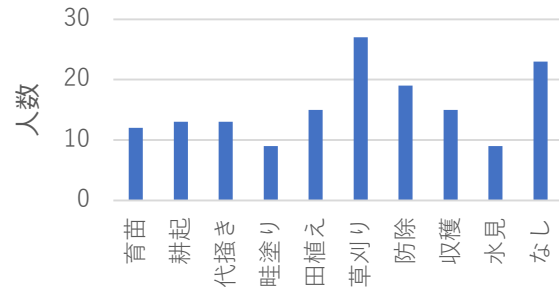


図. 高齢に伴い困難になる作業 (回答した人数 n=348 のうち挙げられた項目の割合)

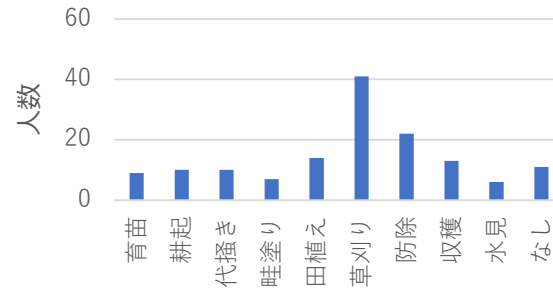
注. 複数回答可, 南割のデータは無し (今後調査予定)

8-3：高齢に伴い困難になる作業（地区ごと）

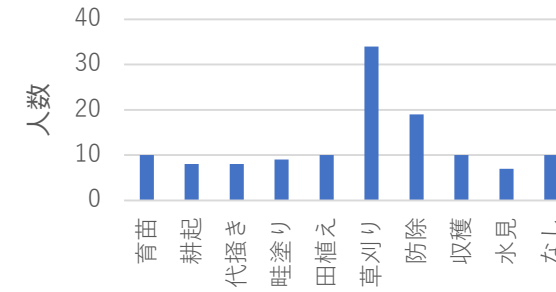
町



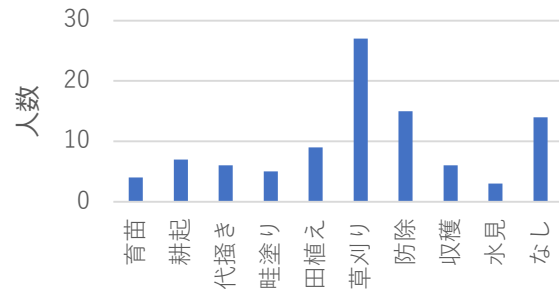
新田



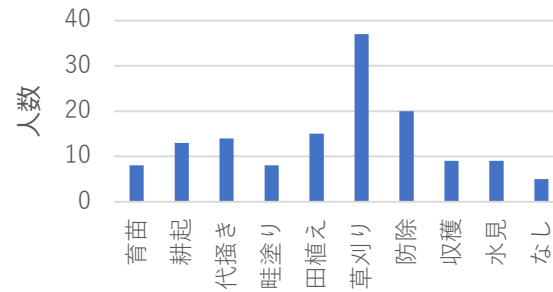
大田切



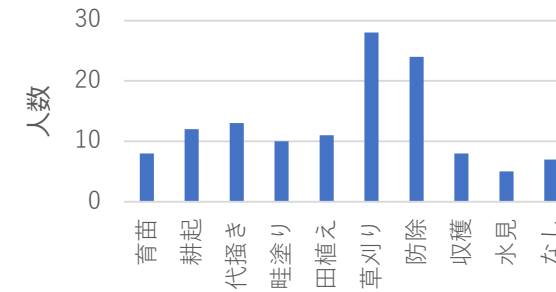
中越



北割



大久保



9-1：草刈りが困難と回答した人の10年後の農業経営

- 前のスライドで草刈りが大変と答えた人の10年後の農業経営について↓

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
継続する	9	32.1	16	40	12	44.4	13	38.2	15	48.4	12	42.9
拡大	1	3.6	2	5	1	3.7	0	0.0	2	6.5	1	3.6
縮小する	6	21.4	10	25	7	25.9	13	38.2	8	25.8	5	17.9
やめる	12	42.9	12	30	7	25.9	8	23.5	6	19.4	10	35.7
計	28	100	40	100	27	100	34	100	31	100	28	100

▶ 特に北割・町でやめる、縮小すると答えた人が多い

9-2：草刈りとその内訳について（グラフ）

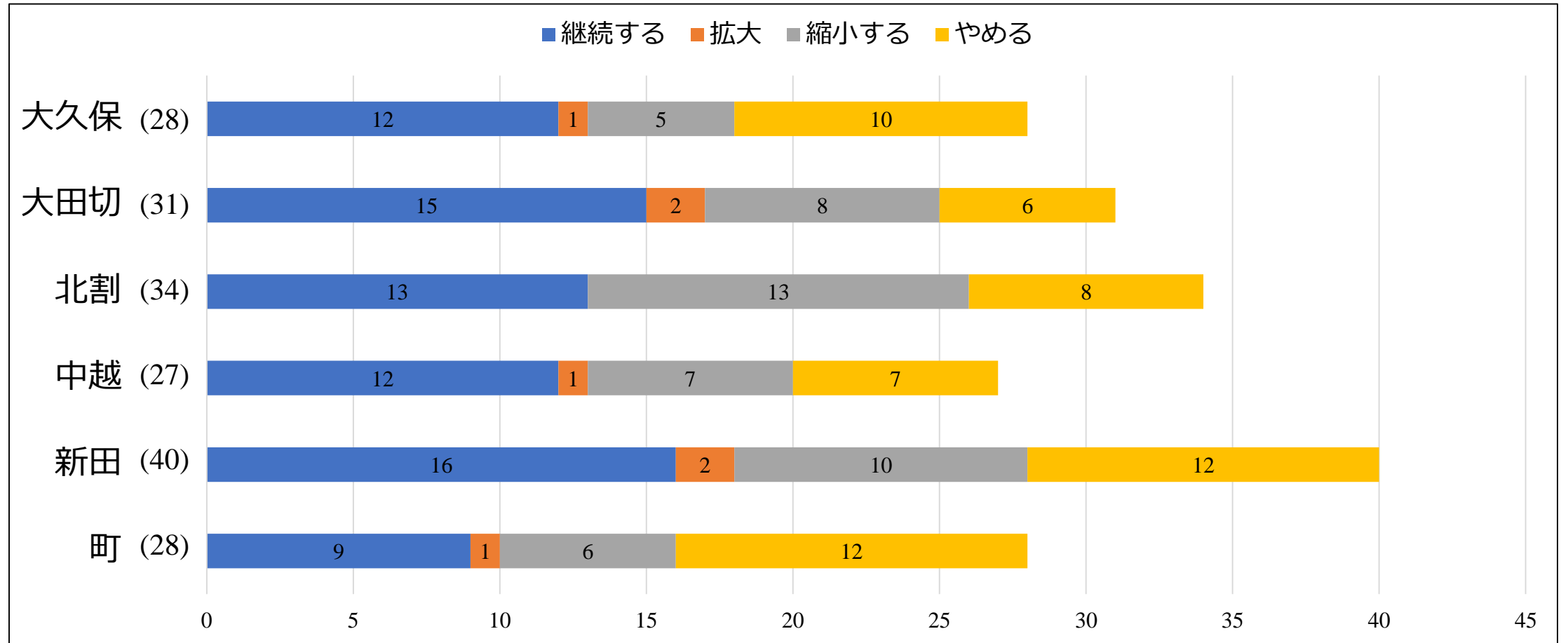


図. 「草刈り」が困難と回答した人の10年後の農業経営

注. グラフ中の数字は回答者数

9-3：草刈りが困難と回答した人の年齢分布

表. 各地区の年齢別における「草刈り」を困難と回答した人の内訳

	町 n=60		新田 n=53		中越 n=44		北割 n=45		大田切 n=46		大久保 n=39	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
30代	1	3.6		0.0		0.0	2	5.6		0.0	1	4.0
40代	2	7.1		0.0	2	7.4	4	11.1		0.0	2	8.0
50代	2	7.1	13	50.0	5	18.5	4	11.1	11	32.4	8	32.0
60代	9	32.1	10	38.5	12	44.4	13	36.1	11	32.4	5	20.0
70代	6	21.4	3	11.5	8	29.6	9	25.0	10	29.4	8	32.0
80代	6	21.4		0.0		0.0	4	11.1	1	2.9	1	4.0
90代	2	7.1		0.0		0.0		0.0	1	2.9		0.0
計	28	100	26	100	27	100	36	100	34	100	25	100

9-4：草刈りが困難と回答した人の年齢分布

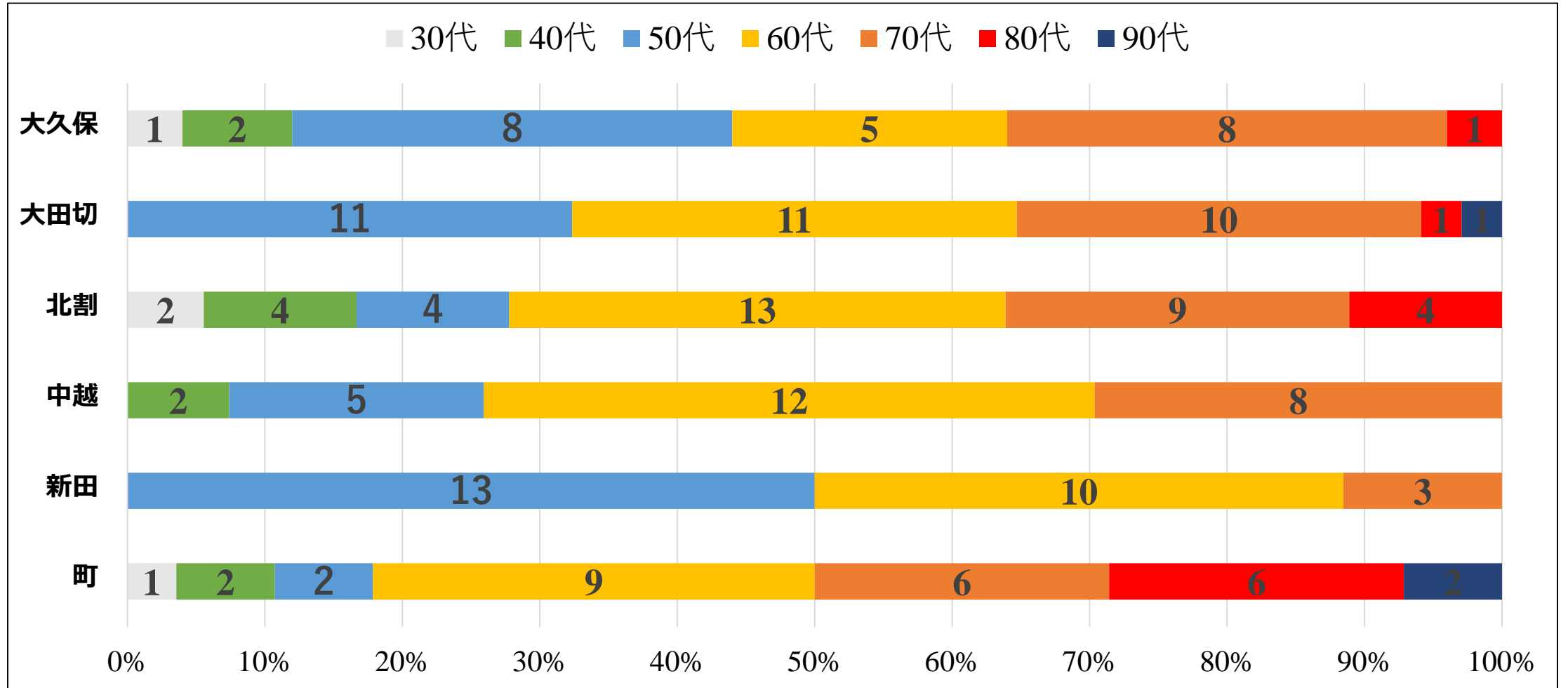


図. 各地区の年齢別における「草刈り」が困難と回答した人の割合

注. グラフ中の数字は回答者数を示す

10：後継者の有無と10年後の農業経営

		町 n=60	新田 n=53	中越 n=44	北割 n=45	大田切 n=46	大久保 n=39
後継者がいない	継続	15	17	16	14	15	11
	拡大	1	1	1	0	2	3
後継者がいる	縮小する	3	0	2	3	1	2
	やめる	0	0	1	0	0	1

- アンケートの10年後の農業経営者について、後継者がいない、もしくは自分が続けると答えた人の中で農業を継続する人と、規模を拡大したい人の抽出をした（表の上二つ）。
- また、後継者が従事すると答えた人の中で規模を縮小する人と、農業をやめる人の抽出（表の下二つ）。表の中にはまだ若いので、後継者を10年後も必要としない人も含まれる。
- 後継者がいる人で農業を縮小・やめると回答した人は、全体の割合から見ても少ない。
⇒全体というのは農業を縮小・やめると回答した人の総数

11：各地区から出た意見（6地区）

- アンケートの自由記述欄に書かれた意見のまとめ
- 以下のスライドを参照

個人農家からの意見（町）

・個人農家からの意見

ふるさと納税について（りんご）、農協に丸投げしている感じがする。役場が主導すべきことなので来年からはそうしてほしい。

耕耘時に畑から出てくる石の処理に困っている

リンゴオーナー制度について、園主の減少や樹の若返りにより毎年オーナーの樹が減っている。

リンゴオーナー制度は村の事業でもあると思うので全体会議だけでなく園主会議にも出席して力を貸してほしい。

防風ネット設置（台風被害を考慮して）

農地所得3反歩規制を見直し、1反歩からとしたい。

来年80代になるので次年度から稲作会計をやってもらいたい。

町営農組合を解体

法人化になったのに営農組合は残ったまま。旧態依然で自分がどこの営農組合に作業をお願いするか選択できるようにしてほしい

法人組織の在り方。収支の合う組織にすべき。

米作りができなくなった時に、どのように対応すればいいのか

個人農家からの意見（北割）①

・個人農家からの意見①

草刈りの面積が広いので、10年後はたいへんになってくるだろう

河川、取付道路(村道)が約200m位あり、草刈りが難しくなってきた。特に農面道路側面の草刈はごみ等が捨てられていて大変です。

営農組合や法人みやだが委託を受けて行っている、田植えや刈取りについて、耕作者が立ち会うようになっていますが(北割の場合)、立ち会わないようにできれば、会社勤めの人でも耕作者になってくれると思います。

高い畦畔の草を全て芝にすることは？

このようなアンケートや農地に関する書類のやりとりを居住地区の役員の方と行う事に違和感がある（居住地区と耕作地区が異なる）

現在営農をしている人たちも、年々高齢化が進み、若い人、Iターンなどの就農者がいない、後継者がいないなどから、今以上に農地委託が毎年増加してくると思われる。

組織経営をめざし、早急に対策を検討する必要がある。

農地を農地のままで保って置く事は村にとってどこまで大切なのでしょうか？農道沿いから中山間地域について商業、住宅地域への転用を考慮していかないと、中途半端な田園風景を売りにお金になるのでしょうか。

水路等を中山間地事業で修繕していっても、肝心の畦畔への傷みが進んで個人ではどうにもならなくなってしまいう心配があります。

草刈りに関して、農家・非農家ではなく、一般の村民を対象に地域で声掛け運動をし草刈隊を結成し要望のある農業者へ草刈り協力を行うよう村が働きかけを検討されたい。その費用を農地・水・環境整備事業等を使用できるような体制で検討されたい。

個人農家からの意見（北割）②

・個人農家からの意見②

現在村の協定での農地・水、環境保全事業は、区・農業のグループ等への支払いであるが、ある一定の条件をつけ個人農業者でも1~2ha以上の規模の事業者への事業支払いが検討できれば、草刈隊への賃金支払いの原始にもなりうるし、農業者が申請手続きをしても良い為、行政の負担もなくなるのでは。

今後、委託農地は増えることが予想されるなかで、個々農家の対応、壮連等の組織では受けることは限界になるのではないか？法人として受託し、経営する。個の農家は水管理、畦畔管理など、できることをできる範囲でやってもらえるような体制をつくる。

当面、村が管理する河川敷、道路敷の草刈は別に考えて欲しい。

個人農家からの意見（南割）

<p>現状の規模の維持，貸付農地を自作するようになったときに，採算を含め持続可能な方法，作物について熟考が必要．植木の農地をどうすれば良いか悩んでいます．</p>	<ul style="list-style-type: none">・公共用地(水、道)方面の草刈りは耕作者から解放してほしい．・委託の地代1500円を上げてほしい．・米価アップを望む．
<p>法人みやだの長期計画が不明確なので心配．草刈りは面積拡大する上で最も問題である．10年先は現役でやる気があるが20年後は難しいかな．</p>	<ul style="list-style-type: none">・法人みやだの直営が必要(農業資材の購入も含めて)・草刈りの負担を少なくするために担い手等（草刈り）の仕組み作りが必要（法人みやだ主導で）
<p>現状は特にないが，将来的に体が弱くなったときは草刈りは営農組合にお願いしたい．</p>	<p>なるべく早く委託したい</p>
<ul style="list-style-type: none">・農法又は株式会社設立の方法や問題点など設立に関する知識がほしい．・宮田の農業の特色をどのように出すのか，現状では農業が楽しくない．	<p>体が動ける間は家庭菜園くらいは作りたいと思う．水田はたぶん法人に依頼するようになると思う．</p>
<p>今のところ，現在自分で行っている作業はやっていきたい．ただ体調が崩れた場合はできなくなる場合もあります．</p>	<p>小作という名前を変えてもらいたい</p>

個人農家からの意見（新田）

・個人農家からの意見

今回のように提出物や、交付金のお知らせがいつ頃にいただけるととても助かります。

農地以外の草刈も大変である。（道路など）手当、燃料代など検討ください。

畦畔の草刈が大変ですが、それ以上に基盤整備後の畦畔3.5mくらいの傾斜がモグラ等で草刈りで踏ん張れないほどゆさゆさになっている。突き固められないか。

草刈り隊を作って賃金をもらいながら管理してほしい（非農家にも参加してもらいながら）

水見は仕事人にとって面倒、散歩の人達に見てもらえるような仕組みを作ってほしい

個人農家からの意見（大田切）

・個人農家から出た意見（アンケートの自由記述欄を参照）

共助金の廃止

水利不良河川改修

専業農家への農地の集積

共助金、補償地区営農組合の機械利用の見直し

安く機械を貸してほしい

農作物のブランド化

観光と蜂蜜取り用の赤ソバ団地を5haほど作りたい。
候補地及び団地を確保してもらいたい。

駒ヶ根地籍になりますが、構造改善していない水田のみ作付しています。細かいU字溝で水も十分に流れず、又U字溝も古く水漏れが原因で畦の土がどんどん少なくなってきました。水の管理がすごく苦痛です。

草刈りが大変

後継者育成の事業充実と支援

人的援農の体制作り

個人農家からの意見（大久保）

・個人農家からの意見

12年後、部分的(草刈り、防除)な作業を営農組合にお願いしたい。

理想は、営農組合が従事者の軽油引取税の還元を代行し、農業経営を守る。村営組の軽油引取税の把握をまず実行する。営組の経営的存在意義を向上させていく

JA職員による有休農地の実践活用事業農業者がJAに利用されるのではなく、農業者がJAを利用する

1次構造改善して約半世紀過ぎ土手が相当荒れてきた為、草刈りが困難になってきた。

米消費減少が年々続き、国の施策水田フル活用が成り立たなくなる中で、いかにして担い手の育成を図るか、宮田村の農振の重要課題。

農業ゴミの減少に向けた取り組みを考えて頂きたい。例えば生分解マルチの推奨等。

今後担い手として地区の農業を請け負っていかうと思いますが、それに対する補助はどのようなものがありますか

今後地球温暖化の進行などによる環境の変化が危惧されますが、行政としてどのような対策、指針を出すことになりますか？

個人農家からの意見（中越）

・個人農家からの意見

継続性を求めるためにも専従運転者だけでなく多くの方々に従事してもらい関心と責任を持っていただきたい。

技術の均平化オペレーションを依頼されない様な作業者では組織として運営し難い。

法人が圃場を借り上げ、農業経営を行う

個人は法人の従業員として、作業する

農地と住宅をしっかりと宮田方式で分離してほしい

住宅が一度建ってしまうと、その周りの農地（特に果樹の防除）への理解があまりなく、住民とのトラブルのもとになっている気がする。

地主に対して土地と利用の分離をしっかりと伝えて欲しい。

地代制度の廃止

担い手組織への補助金支給をしてほしい。（営利団体、JA傘下団体、宮田村壮年連盟は除く）

自分の土地を耕作せずに他人に耕作してもらうのであれば、それ相応のお礼金を支払う制度を導入してほしい。

農政で今日の政府の計画的な事は絶対に反対で今の政治家、全農は農業を分かっていない。

自分で食べるだけ作りあとは営農組合にお願いしたい。

個人農家へのアンケートの追加情報について

1. 10年後に想定される農業従事者

- 10年後に想定される主な農業従事者についての回答
- 回答欄は、後継者、後継者がいない、回答者本人、不明、無回答

2. 高齢に伴い困難になる作業（水稻栽培）

- 高齢に伴い困難になる作業への回答
- 回答欄は、育苗、耕起、代掻き、畦塗り、田植え、草刈り、防除、収穫、水見で複数回答可